

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

SDGsに関する具体的な地域事例を多数掲載

巻頭「未来に向けて よりよい社会を目指して」

巻頭で、SDGsの17の目標とその実現に向けた世界と日本の取り組みを紹介しています。帝国書院の歴史的分野・公民的分野の教科書でも同様のページを設置し、中学校社会科の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけられるようにしています。

地域的・地球的課題の解決に取り組む視点を養う「未来に向けて」を40か所に設置しています。各地の取り組みから、よりよい未来を構想するためのヒントを得られるようにしています。

特設ページ・コラム「未来に向けて」

歴史的分野・公民的分野と共通する「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマから、未来の社会をつくる取り組みを紹介しています。

未来に向けて よりよい社会を目指して

この教科書に登場する生徒

これからの社会に向けて

11月に開催したプラスチックごみ回収ボランティア(南川町、2021年) ペットボトルや発泡スチロールなどのプラスチックごみは、海を漂うなかで小さく砕かれて、マイクロプラスチックとなり、海洋生物や人間の健康につながる恐れがあります(p.103、143)。

4月半ばによる食料供給に苦しむ地域を救済する国際的な食料供給プロジェクト「マダガスカル」(2021年) 国際的な食料供給は、医療や人道支援を行っている民間の非営利組織(NGO)です(p.87)。

4月スノーボードのスポーツ施設を開設した「みどり山」(2022年) この施設では、家庭ごみを燃焼しても有害物質はほとんど出ず、発生した熱は周辺の地域の暖房や電力に活用されています(p.75)。

11月日本の食料や技術の支援などによって建設された地下鉄「アムステルダム」(2019年) 人口の増加が早いアムステルダムでは、都市部の交通渋滞が深刻化しており、都市の広がりや気候変動が問題になっていました。しかし、地下鉄が完成したことで、これらの問題は改善されつつあります(p.51、59)。

4月防災・震災に向けた訓練を推進する「東日本大震災・原子力災害伝承館」(福島県双葉町、2020年) 震災や原子力災害による被害を後世に伝えるために、東日本大震災の被災地をめぐって、東日本大震災の歴史と現状を伝える施設が建設されています(p.146、148、253、264)。

4月クワライナから選り分けた子どもたちを対象に行われる授業(2022年) クワライナからの児童を対象に、無用の廃棄物や資源品、リサイクルの重要性といった授業が提供されています(p.69、76、77)。

4月地域の農作物を加工した食品を販売する農家(栃木県宇都宮市、2018年) 農作物の生産者が加工方法をみずから研究・開発し、販売を行う「6次産業化」の取り組みが日本各地に広がっています(p.160)。

4月平和記念公園で「被爆ピアノ」の話を聞く修学旅行生(広島県広島市、2019年) 広島市では、被爆によって破壊されたピアノを修復する活動が行われてきました。修復された「被爆ピアノ」は、国内外のコンサートなどで使用されています。小島公

↑巻頭1-2

「未来に向けて」掲載ページ一覧(全40か所)

	環境・エネルギー	人権・多文化	情報・技術	防災	平和・安全	伝統・文化
アジア州		p.61			p.55	
ヨーロッパ州	p.73、75			p.67		
アフリカ州		p.85				
北アメリカ州		p.97		p.95		
南アメリカ州		p.111				
オセアニア州	p.121、125					
九州地方	p.173、177、182			p.171		
中国・四国地方			p.198	p.187	p.189	
近畿地方	p.209	p.205		p.203		p.216
中部地方	p.223		p.232	p.221		p.229
関東地方		p.243	p.248	p.237		
東北地方				p.253、264		
北海道地方	p.275、277	p.280		p.269		
その他	p.156-157		p.161、290	p.149		

巻頭1-2「よりよい社会を目指して」

未来に向けて 野生動物との共存を目指して

北海道に生息するエゾヒグマは、日本最大の陸上動物です。アイヌ民族は、エゾヒグマをキムンカムイ(山の神)とよび、神様の化身として大切に、毛皮や肉は「神様から人間への贈り物」として利用してきました。1960年代以降、駆除を進める政策によって頭数が激減しましたが、1990年ごろからヒグマと人間の共存が目指され、近年は急回復しています。そのため、札幌市では、人里へのヒグマの侵入による人身事故や農業被害の発生を防ぐために、ヒグマと人間のすみ分けを図っています。例えば、里山や草地の適切な手入れや、電気柵の設置などを進めています。

→5 電気柵の近くを歩くエゾヒグマ(札幌市)

↑p.277

未来に向けて 世界とつながる平和記念都市、広島

長崎市とともに第二次世界大戦で原子爆弾(原爆)の被害を受けた広島市は、平和記念都市として世界の平和を求め、核兵器の悲惨さを発信しています。その活動の一つが修学旅行の誘致です。国内各地から来る修学旅行生は年間30万人を超え(2019年)、世界文化遺産に登録された原爆ドームなどを見学したり、被爆者の話を聞いたりしながら、命の尊さや平和の大切さを学んでいます。

→4 平和記念公園で「被爆ピアノ」の話を聞く修学旅行生(広島県広島市、2019年) 広島市では、被爆によって破壊されたピアノを修復する活動が行われてきました。修復された「被爆ピアノ」は、国内外のコンサートなどで使用されています。小島公

↑p.189

未来に向けて 芸術祭による地域おこし

新潟県十日町市と津南町の一帯では、地域の自然景観や建築物などを生かして芸術家が作品を制作する芸術祭が開催されています。棚田や廃校となった校舎を利用した作品などが制作され、運営と制作には地域住民やボランティアも参加しています。こうした芸術祭は、現在では日本各地で開催されるようになり、地域資源の見直しや住民参加の地域おこしにつながっています。

→7 田園風景のなかに飾られた芸術作品(新潟県十日町市、2022年7月)

↑p.229

未来に向けて 未来の命を守る「女川いのちの石碑」

「女川いのちの石碑」は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって起こった津波(→p.146)の被害を後世に伝え(→巻頭2)、未来の命を守るために設置されています。震災当時、小学6年生だった宮城県女川町の子もたちが中心となり、津波が襲ってきた地点よりも高い場所に石碑を建て、避難の目印とすることで多くの命を守ろうとしています。町内にある21の浜に建立する費用の寄付金を集め、2021年に最後の石碑を建てることができました。建立した石碑をこれからの防災に役立たせていくことが期待されています。

↑6 女川町立女川中学校に建てられた21番目の石碑(宮城県女川町、2021年)

↑p.253

未来に向けて 公共交通を活用したまちづくり

これまでの日本は、人口増加に伴って市街地が中心部から郊外へと広がっていきました。しかし、人口減少に伴う市街地の縮小は、公共交通の維持や、高齢者や障害者などの移動に大きな課題を生んでいます。栃木県の鹿沼市では、人口減少に悩む市街地では、公共交通の維持や、高齢者や障害者などの移動に大きな課題を生んでいます。鹿沼市では、人口減少に伴う市街地の縮小は、公共交通の維持や、高齢者や障害者などの移動に大きな課題を生んでいます。鹿沼市では、人口減少に伴う市街地の縮小は、公共交通の維持や、高齢者や障害者などの移動に大きな課題を生んでいます。

↑8 路面電車が走る都市

↑9 マンドクラーを使用する人(栃木県宇都宮市、2023年) 専用の乗り場ほか、自宅から乗ることもできます。

↑p.248

未来に向けて 多文化の共生を目指す大泉町

自動車関連工場が多い群馬県大泉町には、工場で働く日系ブラジル人とその家族が多く住んでいます。町にはポルトガル語の表示やブラジルの食材を売る店がみられ、学校には日系ブラジル人の生徒がたくさん通っています。このため大泉町は、小中学校に日本語学級を設けてボランティアによる日本語・ポルトガル語講座を開いたり、ポルトガル語の生活ガイドブックをつくらしたりして、異なる文化をもつ人々が暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

→9 ブラジルの食材が売られているスーパーマーケット(群馬県大泉町、2018年)

↑p.243

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

SDGsに関する具体的な地域事例を多数掲載

SDGs11「住み続けられるまちづくりを」にも関連する「防災」については、特に丁寧に扱っています。また、第4部「地域のあり方」では、地理的分野のまとめとして、「持続可能な社会の実現」に向けた探究活動に取り組めるようにしています。

4 日本のさまざまな自然災害
2 種類の図は、自然環境や人口、産業、交通、通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

4 日本のさまざまな自然災害
2 種類の図は、自然環境や人口、産業、交通、通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

4 日本のさまざまな自然災害
2 種類の図は、自然環境や人口、産業、交通、通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

↑p.146

5 自然災害に対する備え
2 種類の図は、自然環境や人口、産業、交通、通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

5 自然災害に対する備え
2 種類の図は、自然環境や人口、産業、交通、通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

5 自然災害に対する備え
2 種類の図は、自然環境や人口、産業、交通、通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

↑p.148

アクティブ地理 AL
自然災害から命を守る
災害の危険性と防災情報の活用

1 イラスト地図から自然災害の危険性を考えよう
TRY1 TRY2 TRY3

2 ハザードマップを使って避難先を考えよう
TRY2

3 あなたが暮らす地域で起こりうる自然災害に備えよう
TRY3

↑p.150-151

防災

本文(p.146-149)で、日本で発生する自然災害と防災・減災への取り組みを学び、「アクティブ地理」(p.150-151)では、クロスロードやハザードマップを用いて、自分たちの住む地域に必要な備えについて考えられるようにしています。

日本で発生する自然災害について記述しています。地形や気候などの自然条件との関わりを理解できるようにしています。

防災や減災への取り組みを理解できるようにしています。災害発生時の公助・自助・共助とともに、どう行動すべきか日頃から考えておくことの大切さを記述しています。

これまでの学習で身に付けた知識・技能を生かして、クロスロードに取り組んだり、ハザードマップの読み取りを行い、自分の住む地域で起こりうる自然災害と、災害に対する備えを「自分ごと」として考えられるようにしています。

第1章 地域のあり方

1 追及するテーマを決めよう
↓兵庫県神戸市の位置

1 追及するテーマを決めよう
↓兵庫県神戸市の位置

1 追及するテーマを決めよう
↓兵庫県神戸市の位置

1 追及するテーマを決めよう
↓兵庫県神戸市の位置

1 追及するテーマを決めよう
↓兵庫県神戸市の位置

1 追及するテーマを決めよう
↓兵庫県神戸市の位置

↑p.284

地域のあり方

地理的分野のまとめとして、これまでの学習で身に付けてきた知識・技能や思考力、判断力、表現力を生かして、テーマ設定→実態調査→課題の考察→解決策の構想→解決策の提案に取り組めるようにしています。一連の流れと方法を具体的に示すことで、無理なく実践できるようにしています。地域の課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組むことで、課題を「自分ごと」として捉え、主体的に社会に参画する態度を養えるようにしています。